

- 令和5年3月、岩手県久慈市は住民の生命を守ることを第一に考え、総合防災ハザードマップ（洪水・土砂、地震・津波）の更新を実施し、全世帯へ配布。
- これまでHP掲載や各世帯への紙版の配布のみであったが、理解促進を目的に初めて全市民を対象に説明会を行った。
- 説明会は、地域単位とし、各地域の住民に対して「掲載内容の説明」、「ハザードマップの見方の解説」、「災害への備えの必要性説明」などを実施。
- 5月16日～19日、5月23日～26日、5月30日から6月2日の計12日間、久慈市全域を対象に市内12カ所で説明会を開催。計196名が説明会に参加。
- 地震・津波や洪水・土砂の災害リスクについて周知したほか、平時の備えや市の取り組みにも言及し、住民の防災意識の向上を図った。また、町内会からの要望に応じて個別開催へも対応している。

概要

5月中旬～6月上旬の間、市役所や各市民センターなどにおいて、防災危機管理課がハザードマップ説明会を実施。（市内全12カ所 参加者196名）
 「起こりうる災害を知り、命を守るために考え、いざという時に備える」ために、災害の仕組みやハザードマップの活用方法、平時からの備え（マイ・タイムライン、防災メモなど）について説明。

ハザードマップの構成

知る 起こりうる災害を『知る』
 ・過去の災害
 ・災害のしくみ
 ・浸水想定区域 など

考える 命を守るために『考える』
 ・さまざまな防災情報の入手方法
 ・避難のしかた など

備える いざという時に『備える』
 ・緊急時の連絡先
 ・マイタイムライン
 ・非常持出品 など

【洪水・土砂】



各地域のマップを説明

【洪水・土砂】

災害発生のおき・形態

土砂災害は、起こる現象によって大きく「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」の3種類に分れます。

土石流の発生

がけ崩れ(崖崩れ)の発生
 「がけ崩れ」は斜面が突然崩れ落ちる災害です。崩れた土砂は、斜面の崩壊の程度を離れた所まで流ることがあります。

土石流
 山麓や川底の石や土砂が、大量の水といっしょになって、津波のように流れてくるものを「土石流」といいます。

地すべり
 地面は地震の震る層が積み重なっています。地下水などがすべりやすい層にしみ込み、すべり落ちる現象が「地すべり」です。

土砂災害について説明

【洪水・土砂】 **P.7~8**

マイ・タイムライン

『わたし』の地域・家庭の状況を確認
 『わたし』の地域・家庭の状況を確認
 『わたし』の行動を書いてみよう！

『わたし』がすべき避難行動計画の完成

【平時の備え・今後の市の取り組み】

マイ・タイムラインなど書き込める項目を掲載し、住民が平時の備えに対する意識づけ・行動ができるように工夫。その他、久慈市で行う取り組みも説明。

今後の市の取り組み

- （1）津波避難訓練の実施**
 ・津波浸水想定を基に、住民を対象とした津波避難訓練を実施（10月中旬を予定）
- （2）指定緊急避難場所等の整備**
 ・避難所、避難場所の環境整備や発電機配備への助成、食料、毛布等の備蓄を計画的に配備
 ・浸水想定地域に避難誘導標識等の整備
 ・各地域と協力し、避難所、避難場所の確保。
- （3）津波避難計画の策定**
 ・円滑かつ的確な避難体制を整備するため、計画を策定し、素早く避難できるように適切な避難経路を設定。

- ハザードマップの構成順「知る・考える・備える」の流れに沿って説明し、掲載内容への理解促進と平時からの備えを実践いただけるよう説明。
- ハザードマップ部分の説明では、各地域のマップを示し凡例の説明などを行った。
- 今後も、定期的な説明会開催などにより、住民の防災意識の向上に努める。

【参加した住民からの意見】

- 想定最大規模の場合、自身が住む地域に流れる川の想定雨量を知りたい。
- 今年度、建設予定のポンプ場の効果を併せて説明してほしい。



ハザードマップの目的について説明



洪水被害(外水・内水氾濫)を説明

○地区防災計画の策定促進にあたり、策定支援を要する地区については、町職員が当該地区の会議に出席し説明したり、資料の一部を作成するなどの支援をしている。

○計画を策定する際、自分の地域のどこが危険なのかを認識するため、過去に災害が発生した箇所や発生リスクが高い箇所を危険箇所として図面で示した「地区防災マップ」を作成し、地域住民が共有できるよう地区防災計画に盛り込まれた。

概要

災害の発生に備えた準備体制の確保と、発災時に地区住民がとるべき行動等をあらかじめ決めておく必要があることから、那珂川町松野地区では地区防災計画を策定することとなった。

策定にあたっては、進め方と計画書の作成を支援してほしいとのご要望をいただいたため、町職員や町社会福祉協議会、必要に応じて栃木県防災士会などの関係機関が策定会議に出席し、助言や説明等を行なった。策定会議は計3回実施した。

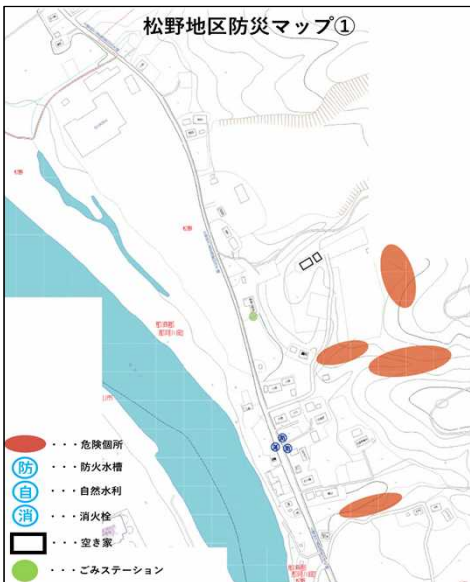
地区防災計画には、災害が発生した時の連絡体制や地区住民・役員がとるべき行動等が記載されたほか、「地区防災マップ」を作成し添付したことで、どの箇所が土砂災害等の危険性が高いのか、一目で分かるようにされた。



計画の必要性や策定の進め方について説明



栃木県防災士会を講師に招いた説明



当地区は、西部に那珂川が流れ、東部は山が連なった地形となっており、南部には城間川が流れている。山沿いは崩壊土砂防護柵による対策工事が行なわれているが、東日本大震災時には松野集会所周辺が崩れる被害があり、注意が必要である。

災害が発生する場合、特に住宅が並ぶ山側に警戒する必要がある、リスクが高い箇所を左図のとおり示した。

マップの作成においては、地区の役員に加え、民生委員や地元消防団員も意見を述べた。

また、消防水利等ほかの情報も含めることで、1枚の図面で複数の情報が得られるようになり、消防団にとっては自身の地域の消防水利を改めて確認することもできる。



複数グループに分かれ危険箇所を洗い出した



松野地区防災計画
(計画書内に防災マップが含まれている)

工夫した点

マップに消防水利を落とし込むことで、火災時に使用が想定される水利を把握することができ、地区住民が消防団活動を支援することも期待できる。

自治体側の今後の課題

策定された地区防災計画及び防災マップが定期的に見直しされるよう促していきたい。

- 社会福祉施設の施設管理者等を対象とした避難確保計画作成支援を実施。
- 昨年のR4.8月災害の事例を踏まえ、村上市内の施設管理者へ作成の必要性を説明。
- 以下について重点的に説明を行い、グループワークにより避難確保計画の作成を実施。
 - ①「浸水・土砂災害ハザードマップ」を用いた避難場所・避難経路の選定
 - ②避難行動に繋がる情報収集方法の習得
 - ③避難行動のタイミング・ポイント
- アンケートで「この講習会がなければ、作成意欲がわかなかった」等の意見があるなど好評だった。

- 実施日時：令和5年6月21日（水）13:30～16:40
- 会場：村上市民ふれあいセンター
- 位置：新潟県村上市岩船 地内
- 対象者：洪水・津波浸水想定区域および土砂災害警戒区域に立地する施設管理者 48名
- 実施内容：避難確保計画作成支援



▲講習会の様子：



▲ワーキングの様子：

避難確保計画の目的や作成方法を説明
避難確保計画のひな形に記入。質問しやすいよう職員が見回り。

6. 本日の講習会のポイント

- 避難確保計画の作成の進め方を学ぶ
 - 本日は洪水・土砂災害・津波のそれぞれの手引きと様式を参考に、避難確保計画の具体的な作成の進め方について解説する講習会です。
- 今日書ける内容は今日書き込む
 - 今日、この場で記入できる内容は「この場で書き込む」講習会とします。
- 避難先と避難タイミングを重点解説
 - 計画内容のうち、避難先・避難経路の設定と、避難タイミングについて重点的に解説します。
 - 他様式については、講習会を参考に、各施設で避難確保計画の検討・作成を進めて下さい。

◀講習会資料：

ワーキング時間を設け、避難確保計画を講習会の中で可能な限り作成してもらい、作成する心理的なハードルを下げることに繋がった。



坂町 浸水状況



村上市 小岩内

▲ R4.8月災害の様子：

浸水被害や土砂災害による家屋被害が発生した。

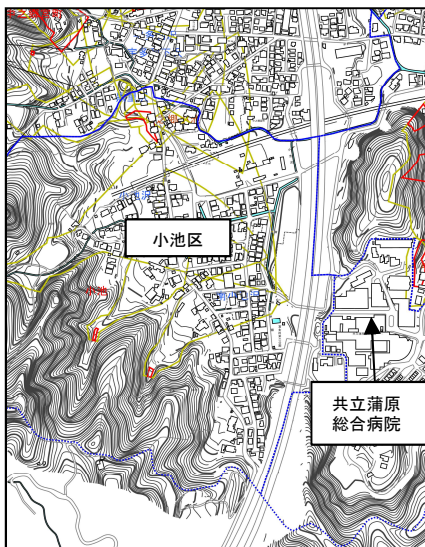
○背景・・・富士市中之郷小池区は、区民の約7割が土砂災害(特別)警戒区域、土砂災害警戒区域内に居住している。地区の避難場所及び自主防災活動の拠点となる公会堂が土砂災害警戒区域内に立地しているため使用ができなく、市の指定避難場所までは、距離が遠いこと、また、高齢化が進み移動手段がない世帯が増えていることから、緊急避難場所を確保してほしいと区から要望があった。

○取組内容・・・令和5年3月、区に隣接する共立蒲原総合病院(土砂災害危険区域外)、区および市との3者協定を締結し、区民が避難するための「いっとき避難場所」を確保した。令和5年6月、協定に基づき共立蒲原総合病院と区が連携した実働型訓練を実施した。

令和4年協定締結の写真

位置図

令和5年 協定内容に基づく訓練



施設入口にて受け付け訓練

施設管理者による施設説明

左隣: 共立蒲原総合病院 中央: 富士市長 右隣: 小池区長
(芙蓉の丘 介護長)

○協定者... 共立蒲原総合病院、小池区、富士市

○協定の概要... 降雨による災害が発生し、又は発生のおそれがある場合に、小池区民が避難するための「いっとき避難場所」として施設の一部を借用する。

○協定締結日... 令和5年3月30日

○訓練内容

- ・区: 避難ルートの危険箇所を確認しながら協定先の共立蒲原総合病院へ避難及び使用可能場所の見学
- ・施設管理者: 避難の受入れ、施設概要の説明

○訓練日... 令和5年6月4日

○参加人数... 56人

- 清水町では、毎年、土砂災害における警戒・避難体制の確認と防災意識の高揚を目的に、災害時応援協定締結バス会社及び地元消防団と連携し、土砂災害警戒区域の幼稚園・保育所園児の避難訓練を実施している。
- 令和5年度は、町立南幼稚園において、消防団員と町職員が園児たちを誘導しながら(有)ドリーム観光バスが用意したバスへ乗車させ、土砂災害警戒区域外の町防災センターへ避難させる訓練を行った。また、町防災センターでは、町職員が、園児たちに避難するときに注意することや覚えておいてほしいことを、イラストを交えながら教えた。

【訓練の概要】

1. 開催日時: 令和5年6月2日 8時40分～10時30分
2. 開催機関: 清水町、消防団、協定先バス会社((有)ドリーム観光バス)
要配慮者利用施設(清水町立南幼稚園)
3. 訓練参加者: 71人
4. 主な訓練内容
 - ・土砂災害警戒情報をうけた避難指示の発令
 - ・要配慮者利用施設から避難所への避難訓練
 - ・園児に対する防災のおはなし



荒天の中、南幼稚園から園児をバスへ移動させる。(町の職員がブルーシートで屋根を作り、誘導する。)



災害時応援協定を締結している(有)ドリーム観光バスが園児を清水町防災センターへ移送する。(消防団が園児の安全を確保する。)

【工夫したところ】

- ・実際に雨が降る中での訓練であったので、園児には雨具を着用してもらい、さらにビニールシートで屋根を作り、園児を移動させた。
- ・園児の雨具の着脱は非常に手間がかかるため、雨具を着用したままで訓練を実施したが、暑さで園児が体調を崩さないように、迅速な移動を心掛けた。

【良かった点】

- ・荒天での実施となったため、参加者全員が緊張感を持って訓練に参加していた。
- ・気温が高い日に園児を移動させる場合、熱中症等のリスクがあるので、迅速な行動が重要であることを訓練参加者で共有することができた。



「お、か、し、も、ち」という標語を用いて、町の職員が園児に対し、防災のおはなしをする。
「お」、おさない
「か」、かけない
「し」、しゃべらない
「も」、もどらない
「ち」、ちかづかない



防災センターから園児を南幼稚園へ移送する。(消防団が園児の安全を確保する。具体的には、園児の誘導や交通誘導、ポンプ車によるバスの追行を実施する。)